

皆さま、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

今日は「第一朗読」から始めましょう。イザヤは、「神」を「私の愛する者」と呼び、この神が手塩にかけて育てたぶどう園をイスラエルの民に喩えます。イエスも今日の「福音」で、まったく同じたとえ話を話しておられます。ぶどう園は農夫たちの管理に任されます。収穫の 때가 やって来ると、主人は自分の取り分を受け取るために自分の僕を送ります。農夫たちはその僕たちを無視し、何人かを袋叩きにし、何人かを殺しました。「そこで最後に、『わたしの息子なら敬ってくるだろう』と言って、主人は自分の息子を送った」。イエスはただの預言者でもなく、単なるしもべでもなく、神が愛する独り子です。さらに、農夫は「これは跡取りだ。さあ、殺して、彼の相続財産を我々のものにしよう」と言って、実に驚いたことにそのとおりになります。十字架上で、御子は、私たちが奪い取るものを私たちに与えてくれます。つまり、御子自身の聖なる命です。

私たちも、立派なぶどう園のように神から多くの頂き物をしています。私たちに与えられた生命をはじめ、私たちの信仰、愛する家族と友達、住んでいる国や平和の国に至るまで、これらすべては、私たちが善用して神に返すだけではなく他の人々に仕えるようにと言わば神から貸し与えられたものです。

イエスは神の独り子であり、すべての人のために仕える者、最後の者となりました。イエスは私たちに命を与えました。彼の権威とはこれなのです。つまり、私たちがどれほど不忠実であるとしても忠実であり続け、回心への決定的な呼びかけをする権威です。皆さま、イエスをご自身に従う人々に今期待する「ふさわしい実り」とは何でしょうか。

